



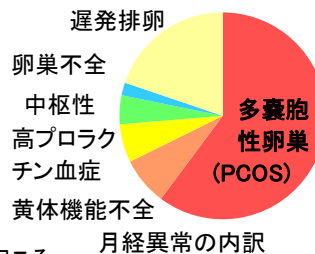
## 山本モナさんもなった多嚢胞性卵巣症候群とは

排卵異常にもいろいろ種類があるが、圧倒的に多いのが多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)だ

20代~30代の女性の10~12%は月経異常といわれています。正常な月経周期は25~38日とされ、次の月経まで39日以上かかる場合は異常(稀発月経)です。



右の円グラフは当科不妊外来での月経異常の内訳を示したものです。全体の60%をPCOSが占めています。すなわち20代~30代の女性の6~7%はPCOSと推定されます。〇〇症候群というと、稀に起こる

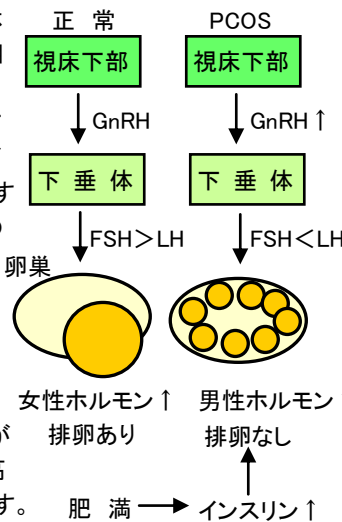


難病のイメージがありますが、タレントの山本モナさんもPCOSであるとブログで公表しその後妊娠されたように、非常にポピュラーで、大多数が妊娠できる疾患です。

PCOSとは卵巣内で男性ホルモンが増えてしまい、排卵しにくくなる病態である

PCOSの原因は明らかではありませんが、ストレス、体重減少等により起こった月経不順が、その人の体質と相まって長期化したものと考えられています。

PCOSの人は、ホルモンの中枢である視床下部から下垂体に向けて放出されるGnRHというホルモンが出すぎています。これにより、下垂体から出て卵巣の排卵を促す2つのホルモンFSH、LHの関係が逆になります。正常の場合、FSHが優位で卵巣の女性ホルモンが増え、排卵に至ります。PCOSの人で逆にLHが高く、卵巣内で男性ホルモンが増え、排卵しにくくなります。排卵しない小卵胞がたくさん見ることがその命名の由来です。



一方肥満の方で、インスリンというホルモンが上昇した場合も、卵巣で同様な男性ホルモンの上昇と排卵異常が起こります。すなわち、PCOSには、すなりとしてLHが高いタイプと、肥満でインスリンが高いタイプに分けられます。山本モナさんが前者であることは言うまでもありません。

PCOSの治療は、排卵誘発剤(内服、注射)、ダイエット+インスリン低下剤、腹腔鏡手術、体外受精と多岐にわたる

1. **クロミッド療法:** PCOSの約7割はこの内服の排卵誘発剤で排卵でき、その6割すなわち全体の4割はこの薬のみで妊娠できます。
2. **ダイエット+インスリン低下剤:** インスリンが高いタイプのPCOSは肥満の方が多く、ダイエットするだけでも排卵が起こる可能性があります。さらにインスリンを下げる効果のあるメトホルミンを内服すると、上記のクロミッドでの排卵が起こりやすくなります。
3. **FSH-HCG療法:** クロミッドが効かないPCOSに対しては、FSH製剤(注射)が用いられます。ただし、FSHを不用意に投与しすぎると、多数の卵胞が一斉に排卵または増大してしまい、多胎妊娠や、腹水が溜まる「卵巣過剰刺激症候群(OHSS)」を引き起こします。そこでFSH製剤は少量より開始し、卵胞の状態を見て少しずつ増やす「低用量漸増投与」が必要です。この匙加減は経験を要します。

4. **腹腔鏡手術:** 腹腔鏡下にレーザーを用いて、卵巣に小さい穴をたくさんあける「卵巣多孔術」を行うと、固いPCOSの被膜が削られ、男性ホルモンも低下することで、排卵が回復することが知られています。当院でも藤田医師を中心に行っており、写真下のような卵巣になります。この方は手術の翌月に早速自然に排卵し、妊娠されました。



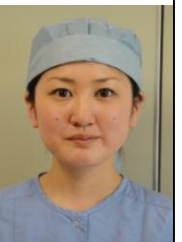
5. **体外受精:** 以上の方法でどうしても妊娠しない場合や、男性因子、卵管因子など他の不妊原因がある場合には体外受精の適応となります。体外受精でもFSH製剤を用いますが、お腹の中で複数排卵するかもしれない前述のFSH療法と異なり、全ての卵を採取して体外で受精させ、1個のみを移植するので多胎の心配がありません(残りの胚は凍結保存)。またOHSSの可能性が高い場合も、すべての胚を凍結してその周期での妊娠を避けることで、重症化を防ぐこともできます。



## 胚培養士試験に合格

平成22年4月より当院で胚培養士として活躍している吉田奈央が、このほど日本哺乳動物卵子学会の認定する胚培養士の試験に合格しました。この学会は胚培養士はもちろん医師、基礎研究者も多数参加する伝統ある学会で、この認定を取得した胚培養士は県内でも少数です。

なお吉田は、当院の不妊治療の実績を大きく向上させたこと、明朗でフレンドリーな仕事ぶりが患者さん、職員から高く評価され、当院で模範的な仕事をした職員に贈られる「済生会会長症」も受賞しています。



吉田奈央の話: 大学院で学んだことを基に、長谷川先生から顕微授精や胚凍結等を学び、助産師さんなどスタッフの皆さんの支えもあって何とか合格できました。

試験では培養の基礎問題だけでなく、臨床の問題も多く出題されました。普段外来に出る機会も多く、患者さんとお話をさせていただきながら、色々なことを学ばせていただいたおかげだと思っています。

今後さらに精進して、患者さんの大切な卵・胚をより良い状態で培養できるように努力いたします。ありがとうございました。

▼PCOSについて山本モナさんを取り上げさせていただいたのは、ブログで公表なさったことに加え、他の理由もあります。PCOSの患者さん(特にLH高値型)はエレガントな方が多く、山本さんは典型的だと、PCOSをたくさん診ている小欄がビントきたのです。▼山本さんのブログは329回も続きましたが、小紙もなんと120回、創刊から丸10年になります。いつもご愛読いただいている患者さんには、心より感謝申し上げます。▼また、妊娠・出産というのは、医学的な面だけでなく、助産師がいて、母乳があって、子育てにもつながり、実に切り口が多く奥深いものです。そのお蔭で、ネタ切れもせず続いているのだと思います。